



# 2023年3月期 第2四半期決算説明会

2022年11月21日

代表取締役社長

**實吉 政知**

	ページ
<b>1. テクノメディカの歴史・主要製品</b>	… 2-4
<b>2. 2023年3月期 第2四半期決算</b>	… 5-20
<b>3. 第2四半期トピックス</b>	… 21-26
<b>4. 2023年3月期 業績見通し</b>	… 27-30
<b>5. 2023中期経営計画人材戦略</b>	… 31-44

 **Techno Medica**

**テクノメディカの歴史・主要製品**

1987年	9月	神奈川県川崎市高津区にて創立
1988年	9月	全自動血液ガス分析装置の販売を開始
1991年	4月	自動採血管準備装置の販売を開始
1997年	3月	本社社屋の竣工 (横浜市都筑区仲町台)
1998年	6月	本社第2研究所竣工 ⇒ 研究開発部門の充実
2005年	9月	本社第3研究所竣工 ⇒ 研究開発部門 + 物流の充実
2008年	3月	東京証券取引所市場第一部に指定
2009年	7月	本社第4ビル竣工 ⇒ 生産業務施設の充実
2012年	9月	ヘルスケアセンターを開設 ⇒ ヘルスケア部門の研究開発強化
2019年	7月	テクノメディカ台湾支店の開所
	8月	横浜SOSiLA港北に物流倉庫の開設
2020年	7月	中型自動採血管準備装置・システムの販売開始
	7月	尿中バイオマーカー測定システムの販売開始
2021年	9月	新開発 採血受付システム・採血採尿受付システムの発売開始
2022年	4月	東証「プライム市場」へ移行
	8月	血液ガス分析装置新製品GASTAT-proの販売開始
	10月	当社従業員に対する譲渡制限付株式の付与決定

## ● 品目別に見た主要製品

		製品名			
採血管準備装置 ・システム	 <p>採血管準備装置 BC・ROBO-8001RFID</p>	 <p>卓上型 採血管準備装置 BC・ROBO7</p>	 <p>RFID検体情報 統括管理システム TRIPS</p> <p>アンテナ ボックス 採血管 スタンド</p>	 <p>全自動尿分取装置 UA・ROBO-2000RFID</p>	
	検体検査装置	 <p>血液ガス分析装置 GASTAT-700モデル</p>	 <p>ハンディ型血液ガス分析器 GASTAT-navi</p>	 <p>電解質測定器 STAX-5 Inspire</p>	<p>&lt;その他&gt; 赤血球沈降速度測定装置 尿中酸化ストレスマーカー測定システム 等</p>
消耗品等	 <p>ラベル</p>	 <p>センサーカード</p>	 <p>電極</p>	 <p>ハルンカップ</p>	<p>&lt;その他&gt; 採血管準備装置および 検体検査装置の保守 等</p>



# 2023年3月期 第2四半期決算

## ● 決算サマリー：国内採血管供給事業の終了

(単位：百万円)

	2022/3期 2Q累計		2023/3期 2Q累計		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売上高	4,291	100.0%	3,772	100.0%	△12.1%
営業利益	669	15.5%	446	11.8%	△33.3%
経常利益	676	15.7%	454	12.0%	△32.7%
四半期純利益	468	10.9%	309	8.1%	△34.0%
1株当たり純利益(円)	54.9	—	36.7	—	△33.2%
1株当たり純資産(円)	1,760	—	1,835	—	+4.2%

## ● 品目別売上高（全体）：採血管準備装置・システム販売件数減

（単位：百万円）

	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2022/3期	2023/3期	
				2Q累計	2Q累計	前期比
採血管準備装置 ・ システム	4,233	3,303	3,791	1,482	1,038	△29.9%
構成比	43.2%	36.5%	39.0%	34.5%	27.5%	—
検体検査装置	570	740	561	257	241	△6.0%
構成比	5.8%	8.2%	5.7%	5.9%	6.4%	—
消耗品等	5,006	4,996	5,345	2,551	2,492	△2.3%
構成比	51.0%	55.3%	55.1%	59.4%	66.0%	—
合計	9,810	9,040	9,699	4,291	3,772	△12.1%



## ● 決算（前年同期比）のポイント・トピックス

### 売上高 減少要因

#### 採血管準備装置・システム

⇒ 国内は中・小型案件は増加したが大型案件が減少、海外は他社との競争激化  
 < 国内25%減、海外56%減 >

#### 検体検査装置

⇒ 国内はハンディ型がモデルチェンジの端境期、海外はデスクトップ型が持ち直し  
 < 国内12%減、海外4%増 >

#### 消耗品等

⇒ 国内は採血管供給事業の終了が影響、海外は稼働装置の増加が寄与  
 < 国内3%減、海外6%増 >

### 販管費

コロナ自粛継続により変わらず

### トピックス

新製品開発状況を展示会出展/GASTAT-proの販売開始

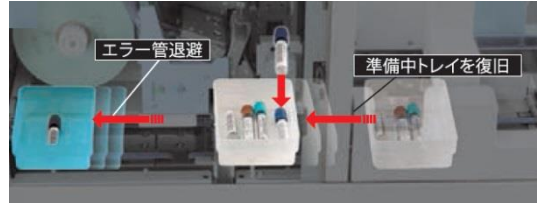
● 主力製品 BC・ROBO-8001 RFID について

自動採血管準備装置  
BC・ROBO  
8001  
RFID

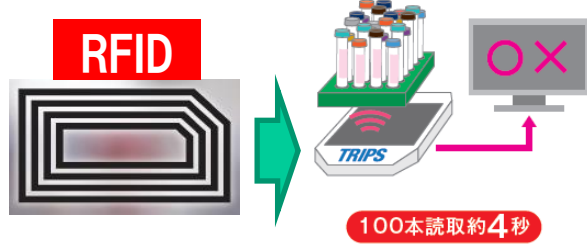
4  
つ  
の  
新  
機  
能



IoTサポート  
⇒ 自動起動機能 等



自動復旧  
⇒ 発行動作の停止を回避



RFID連携強化  
⇒ 検体トレーサビリティの強化



自動学習  
⇒ メンテナンス時期のアラート 等



## 大型案件・採血業務支援システム Assist More

### 採血受付

採血の診察券、受付票の読取データに応じて採血整理券を自動発行

患者呼出  
採血情報表示  
患者照合  
採血カルテ登録

### 採血カルテ登録



採血後画面タッチで患者情報を入力。採血カルテはピクトグラムを多用し、登録も簡単。患者の詳しい採血情報の共有も可能

### 採血管準備

**BC・ROBO**

バーコードラベルを貼り付けた採血管、採血指示書、手貼ラベル、コメントラベルをトレイにまとめて自動発行

オールインワン

採血管

採血指示書

手貼ラベル

コメントラベル



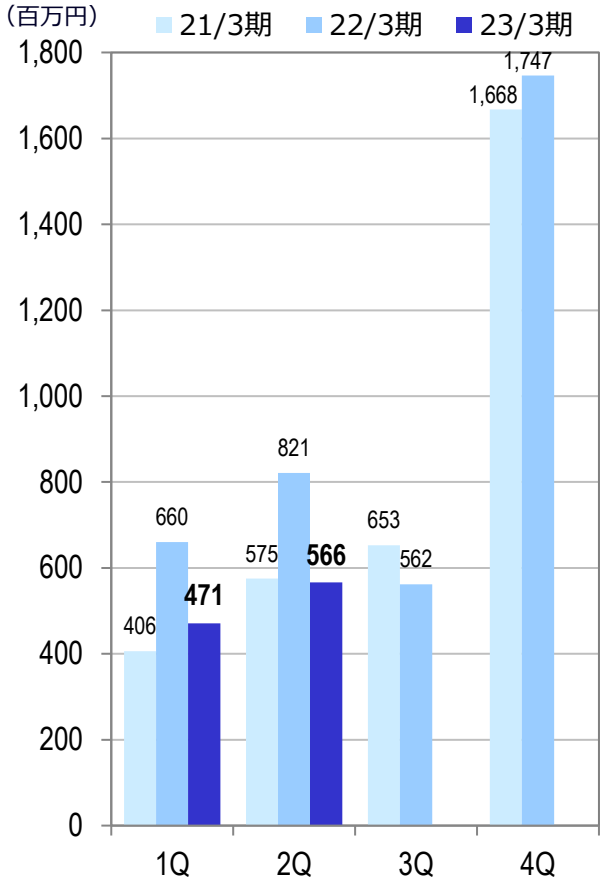
### 患者照合



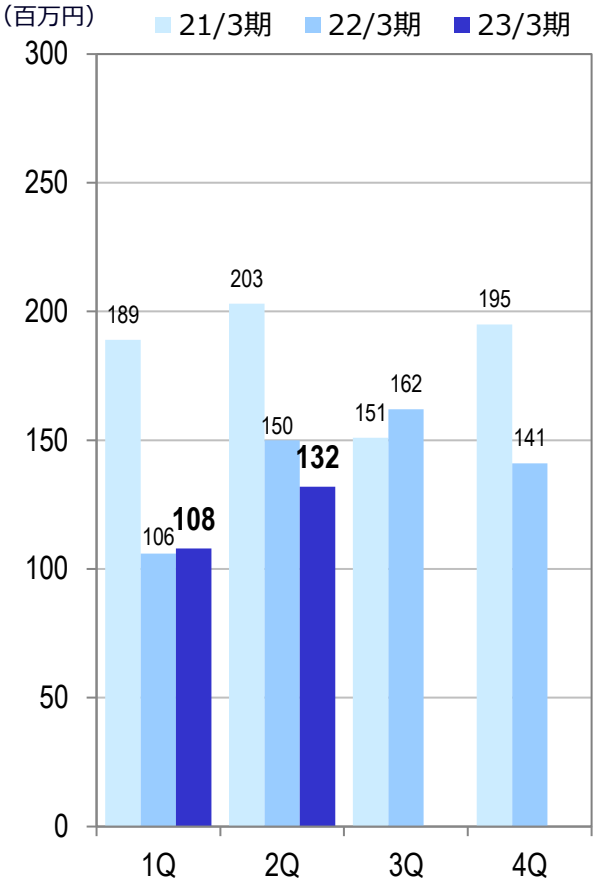
患者照合の上、RFIDで採血管バーコード情報を瞬時に照合 ⇒ 安全性・効率性アップ

## ● 品目別売上高（四半期別） 採血管準備装置・システムが対前期大幅減

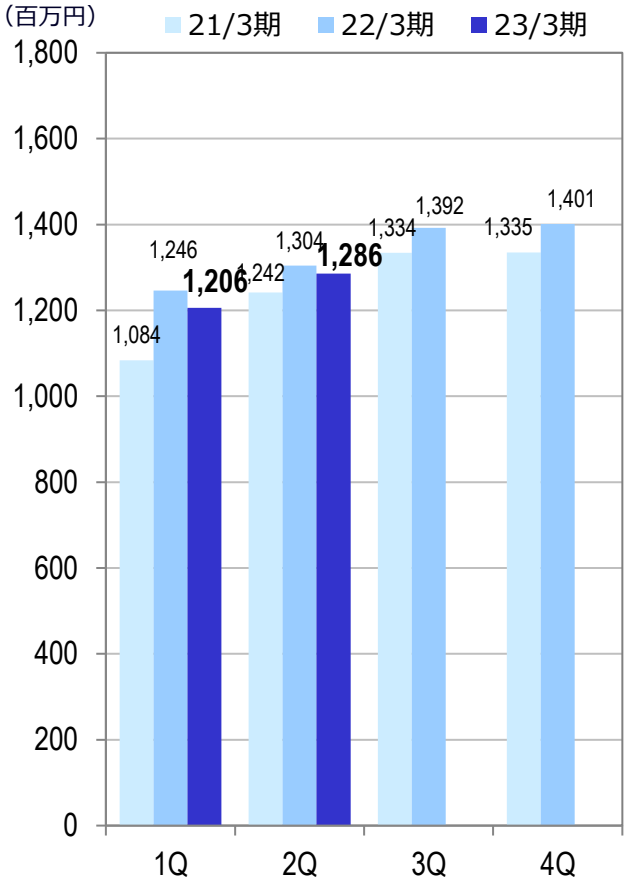
採血管準備装置・システム



検体検査装置



消耗品等

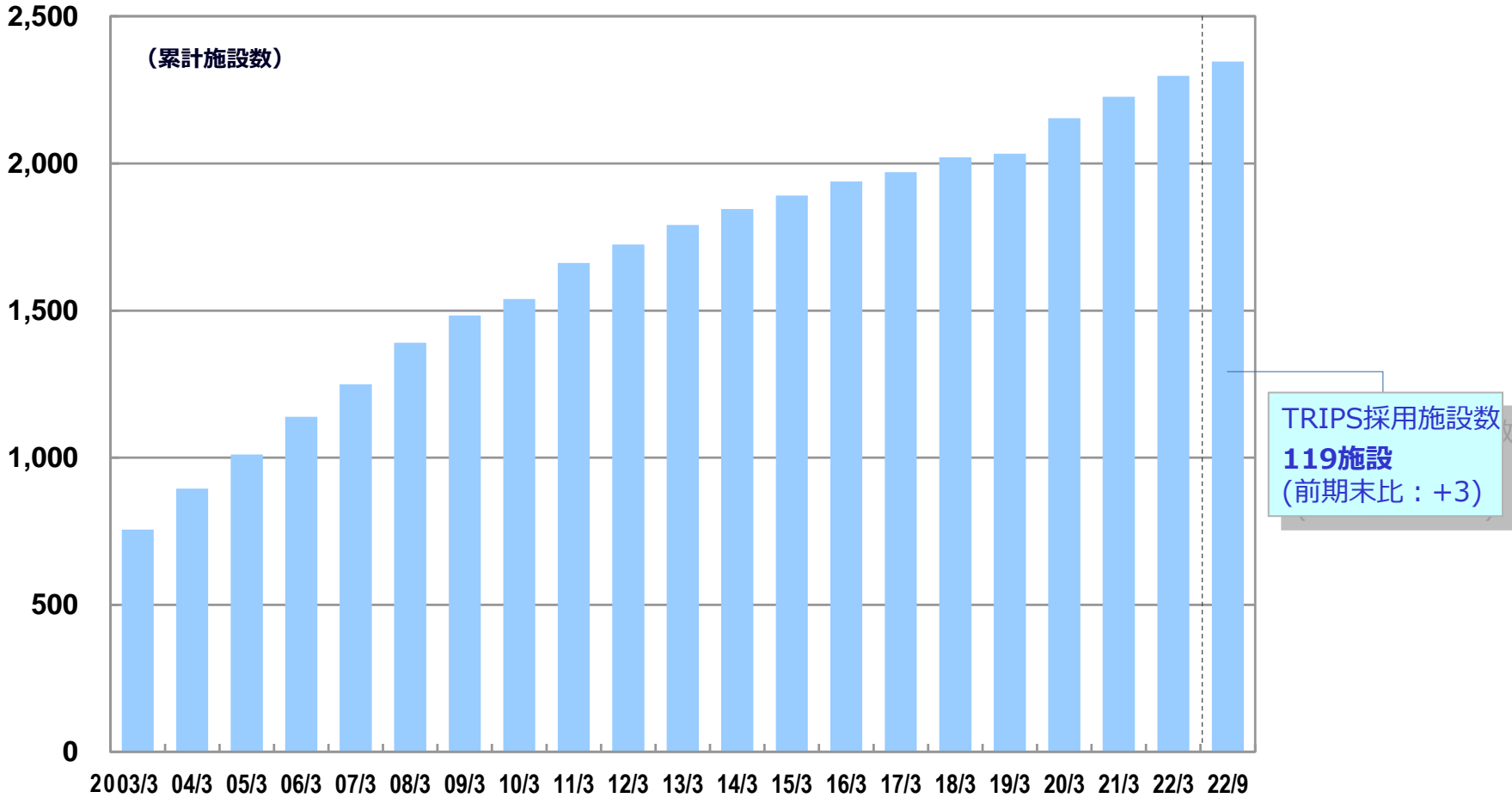


## ● 採血管準備装置・システム – BC・ROBO納入施設数

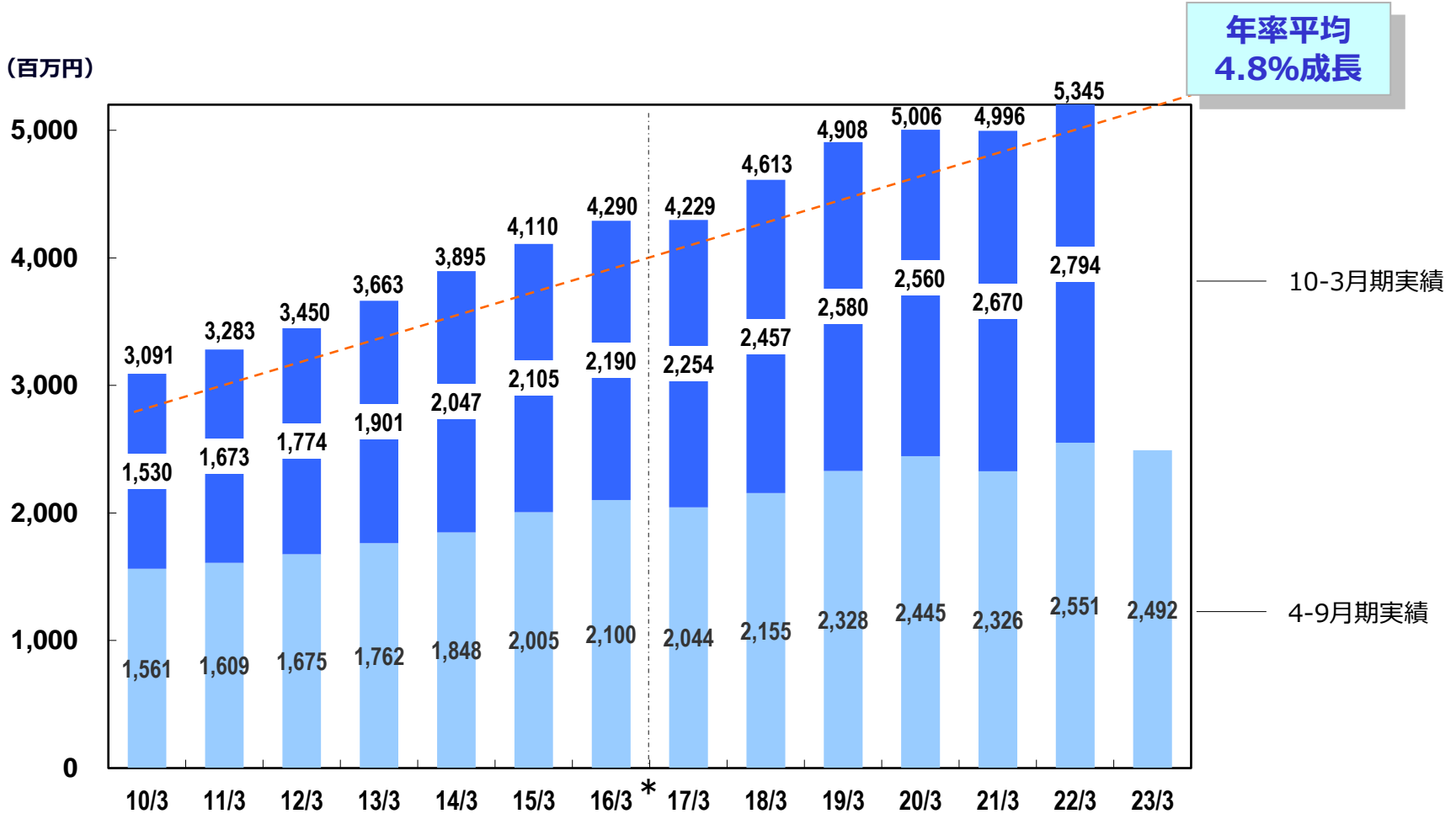
	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2022/3期	2023/3期	
				2Q累計	2Q累計	前期差
納入施設数	429	364	438	222	157	△65
国内	271	224	314	129	107	△22
うち新規	121	73	71	56	49	△7
うち更新	150	151	243	73	58	△15
輸出	158	140	124	93	50	△43

- ・国内：中・小型案件は増加したものの、大型案件が減少
- ・輸出：コロナの影響回復の遅れと競争の激化

## ● 採血管準備装置・システム – 国内納入施設の推移



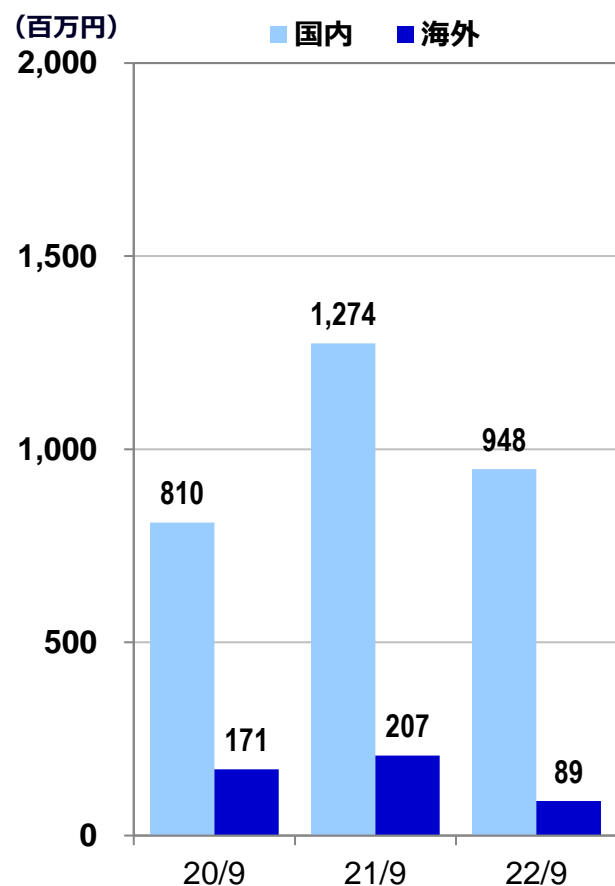
## ● 消耗品等（含む保守料）の売上高推移



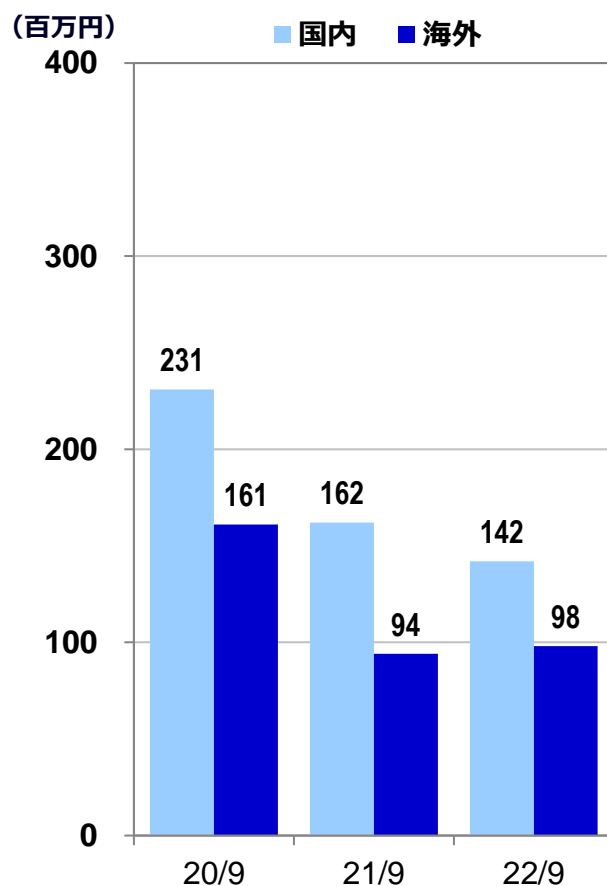
\* 17/3期より保守料の計上方法を変更

## ● 品目別売上高（国内・海外別） 採血管準備装置・システムは前々度並み

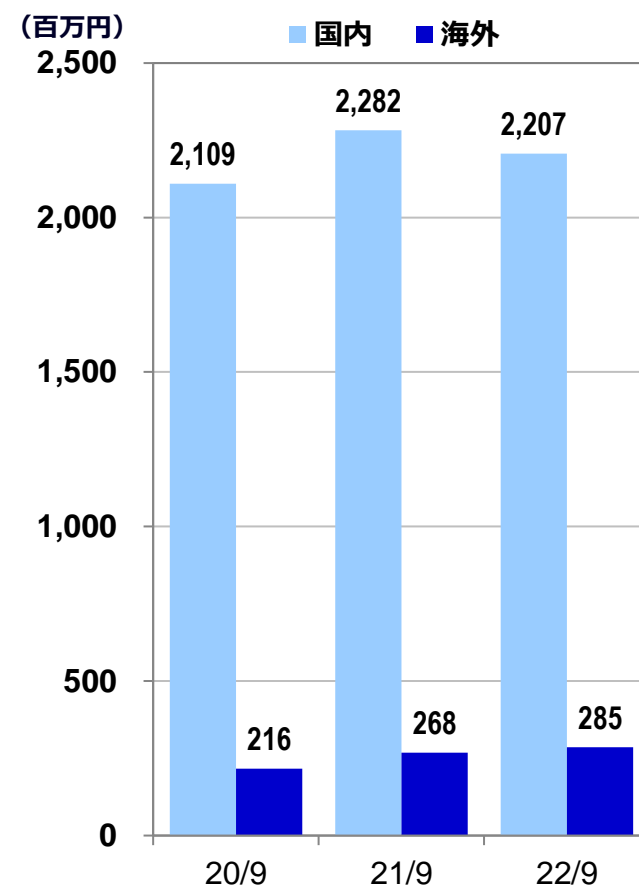
採血管準備装置・システム



検体検査装置

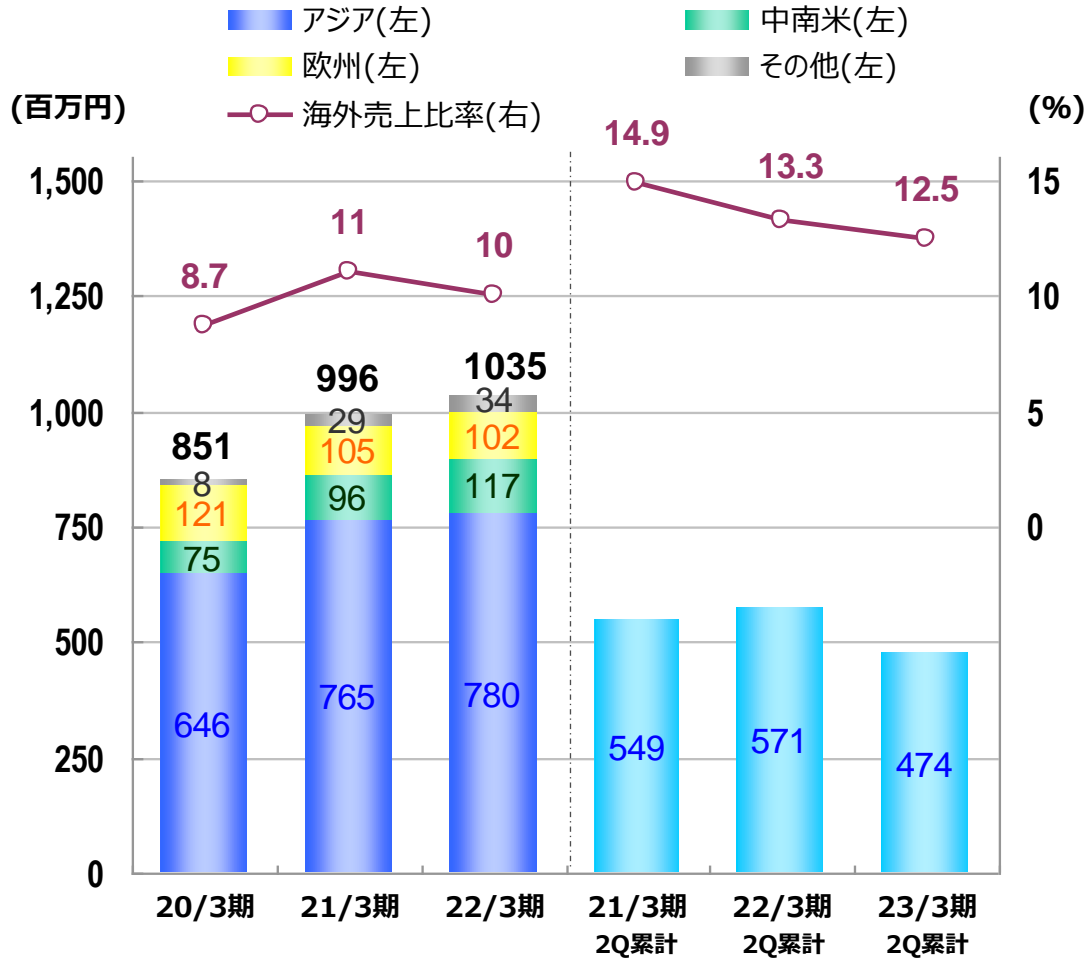


消耗品等





## ● 海外売上高…世界44ヶ国へ販売



**[2022/3期 2Q累計]**

- 採血管準備装置・システム  
… 新型コロナの影響継続
- 検体検査装置  
… デスクトップ型の装置販売が持ち直し
- 消耗品等  
… 稼働装置数の増加等により増加

## ● 要約損益計算書

(単位：百万円)

	2022/3期 2Q累計		2023/3期 2Q累計		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売上高	4,291	100.0%	3,772	100.0%	△12.1%
売上原価	2,177	50.7%	1,897	50.3%	△12.8%
売上総利益	2,113	49.2%	1,875	49.7%	△11.3%
販売管理費	1,443	33.6%	1,428	37.8%	△1.0%
営業利益	669	15.5%	446	11.8%	△33.3%
営業外損益	6	—	8	—	—
経常利益	676	15.7%	454	12.0%	△32.7%
特別損益	—	—	—	—	—
法人税、調整額等	207	—	143	—	—
四半期純利益	468	10.9%	309	8.1%	△34.0%

売上高の減少の影響が大きい

## ● 要約貸借対照表【資産の部】

(単位：百万円)

	2022/3期末		2023/3期 2Q末		
	金額	百分比	金額	百分比	増減額
流動資産	16,472	89.0%	15,799	88.5%	△673
現預金	11,523		11,865		+341
売上債権	3,652		2,197		△1,454
棚卸資産	1,229		1,631		+402
その他流動資産	67		104		+36
固定資産	2,035	10.9%	2,041	11.4%	+6
有形固定資産	1,492		1,518		+25
無形固定資産	33		27		△5
投資等	509		495		△14
資産合計	18,508	100.0%	17,840	100.0%	△667

製品の先行購買を実施した

## ● 要約貸借対照表【負債・純資産の部】

(単位：百万円)

	2022/3期末		2023/3期 2Q末		
	金額	百分比	金額	百分比	増減額
流動負債	2,630	14.2%	2,132	11.9%	△497
買入債務	1,282		997		△285
短期有利子負債	—		—		—
その他流動負債	1,348		1,135		△213
固定負債	227	1.2%	235	1.3%	+7
長期借入金	—		—		—
その他固定負債	227		235		+7
負債合計	2,858	15.4%	2,368	13.2%	△489
純資産合計	15,650	84.5%	15,472	86.7%	△177
負債・純資産合計	18,508	100.0%	17,840	100.0%	△667

## ● 要約キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2022/3期 2Q累計	2023/3期 2Q累計	
	金額	金額	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,421	915	△506
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,511	△68	△2,580
財務活動によるキャッシュ・フロー	△433	△504	△70
現金・現金同等物の増加額	3,499	341	△3,157
現金・現金同等物の期首残高	7,570	11,523	+3,953
現金・現金同等物の期末残高	11,069	11,865	+795
研究開発費	187	160	△27
設備投資実施額	53	63	+10
減価償却実施額	58	51	△7

フリーキャッシュフローはプラスで安定的に推移、基盤整備、研究開発投資に活用を検討

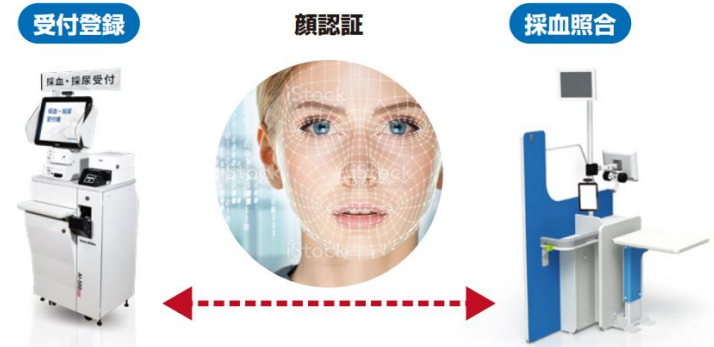
 **Techno Medica**

# 第2四半期トピックス

## 新開発品出展 臨床検査機器・試薬・システム展示会 (2022年10月7日～9日)

### ① 生体認証 受付システム

- 最新顔認証
- 採血対応の照合精度向上



### ② クラウド型 採血待合システム

- 混雑状況・案内情報発信
- 患者サービス向上を支援



### ③ IC カード運用システム

- ICカード診察券の実用化
- マイナンバーカード運用の先駆け



## 血液ガス分析器 New GASTAT-Pro

- コンパクト、高機能 新型装置
- 新開発センサカード
- 操作性をアップグレード





## 採血管供給事業の終了（2022年4月）

1991年の自動採血管準備装置の販売開始より  
消耗品として採血管供給の事業を展開

→ 採血管仕入れ先より、2022年4月末をもつての供給停止の連絡

事業継続の方向性を探るも、

- ・前年度より供給不安が発生し、供給不安は益々顕在化するリスクが大きい
- ・供給不安に対する責任を果たすのは難しく、大きな企業リスクを伴う懸念

→ 2022年4月末をもつて採血管供給事業の終了を決定  
売上減少分については、他の消耗品事業によるカバーを図る

## 社員への株式付与

従業員に対する譲渡制限付株式の付与の決定(2022年10月)

従業員に対して、譲渡制限付株式の交付を実施

### <目的>

- ・中長期的な企業価値及び株主価値の持続的な向上を図るインセンティブを付与
- ・株式所有により経営参画意識を高め、株主の皆さまと一層の価値共有を進める

(1) 払込期日	2022年12月8日
(2) 処分する株式の種類及び数	当社普通株式 45,600株
(3) 処分価額	1株につき1,625円
(4) 処分総額	74,100,000円
(5) 割当予定先	従業員214名 45,600株

## ④ ESG（環境・社会・企業統治）への取組み

### 本社ビル修繕 太陽光発電対応工事概況

#### (1) 目的

- ① 新規プライム市場で事業活動が続けるために、SDGs(国連の持続可能な開発目標)、ESG(環境、社会、企業統治)への対応
- ② 2030長期ビジョン、10年後の社会像への対応として、持続可能な成長を図る

#### (2) 主な工事スケジュール概要

- ① 2022年9月 本社ビル修繕完工
- ② 2023年1月 太陽光発電対応工事 着工





# 2023年3月期 業績見通し

## ● 2023年3月期 業績見通し

(単位：百万円)

	2022/3期		2023/3期 (予)		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売上高	9,699	100.0%	10,000	100.0%	+3.1%
営業利益	1,861	19.1%	1,500	15.0%	△19.4%
経常利益	1,851	19.0%	1,500	15.0%	△18.9%
当期純利益	1,281	13.2%	1,050	10.5%	△18.0%
1株当たり純利益(円)	150.8	—	123.6	—	—
1株当たり配当金(円)	60.0	—	55.0	—	—
研究開発費	405	4.2%	760	7.6%	+87.6%

通期目標 売上高100億円、営業利益15億円（2022年11月4日決算短信）を目指す

## ● 2023年3月期 品目別売上高見通し

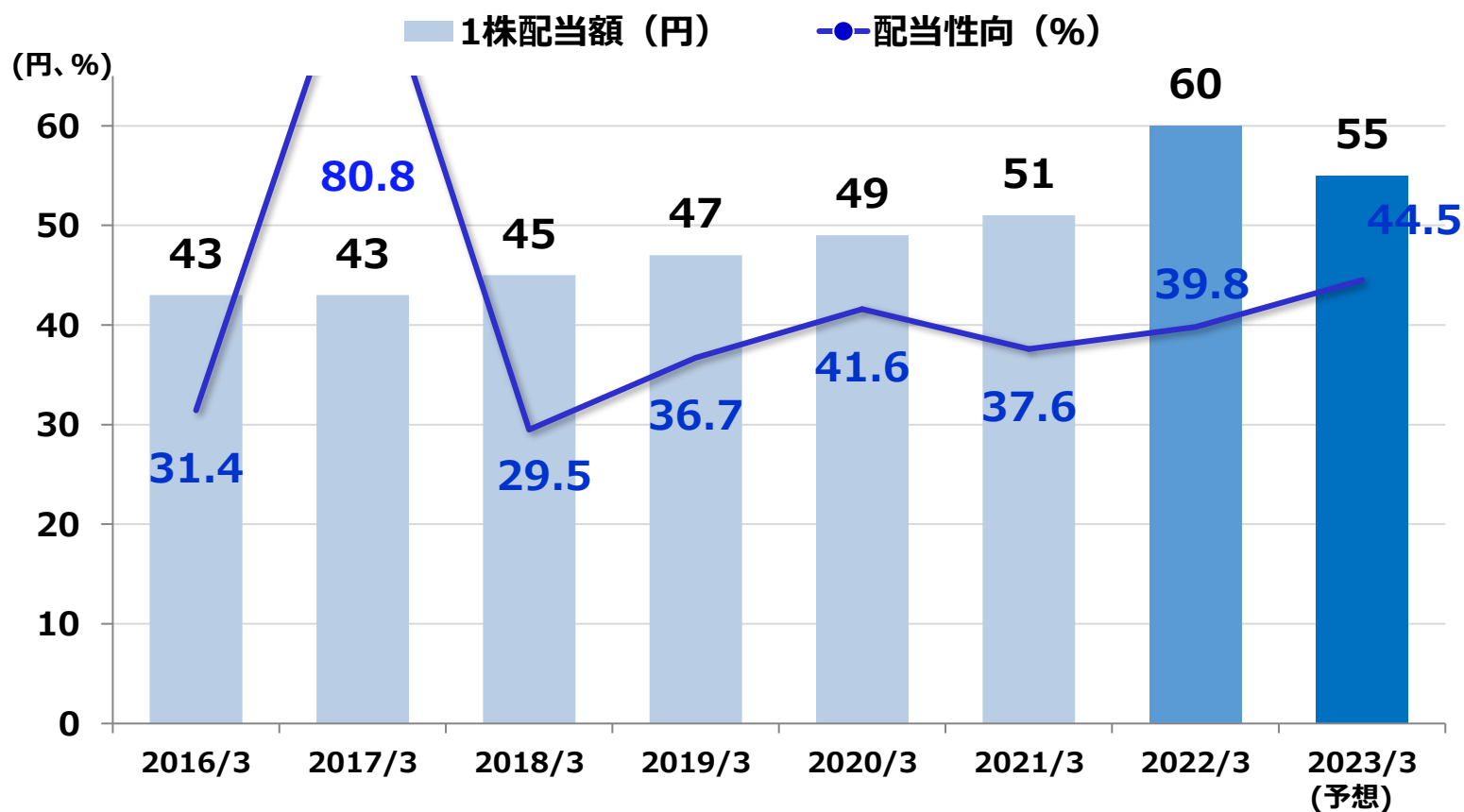
(単位：百万円)

	2022/3期		2023/3期 (予)		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売上高	9,699	100.0%	10,000	100.0%	+3.1%
採血管準備装置 ・ システム	3,791	39.0%	4,230	42.3%	+11.5%
検体検査装置	561	5.7%	550	5.5%	△1.9%
消耗品等	5,345	55.1%	5,220	52.2%	△2.3%

2023/3期・下期の売上高の挽回を目指す

## 【配当性向の目標】

30%~40%を当面の目安として目指す



 **Techno Medica**

**2023 中期経営計画  
人材戦略**



2023年度からの3ヶ年「中期経営計画」を策定するにあたり「中期経営計画人材戦略」を策定しました。

1. 2023中計基本方針
2. コーポレート・ガバナンスコードからの要請
3. 内外環境分析から求められる課題
4. 2023中計人材戦略重点課題

## ● 1. 2023中期基本方針

### <2023中計基本方針目的>

- ① 「2030長期ビジョン」を見据え、更なる発展への展開を図る。
- ② 持続的成長へ向けたビジネスモデルの変革を図る。
- ③ ESG（環境・社会・企業統治）視点での事業を通じた社会的課題解決への貢献を行う。
- ④ 「2030長期ビジョン」達成のための人材価値の最大化を図る。

## ● 2. コーポレート・ガバナンスコードからの要請

### (1) 人的資本

当社の人事制度の理念は「働きがい・生きがいの創造」

#### <人材育成の重点課題>

- ① グローバルな事業拡大及び新規事業育成のための人材の確保・配置
- ② 「成長と自立」を目指す「能動的人材」の育成
- ③ コンプライアンスの徹底

#### <多様な働き方の支援>

社員ひとり一人が能力を発揮できる制度・環境の整備

→就業規則の改定、休日増、在宅勤務、フレックスタイムの導入...

## ● 2. コーポレート・ガバナンスコードからの要請

### (2) 女性活躍促進を含む社内の多様性の確保

社会が求める価値を創造し続けるための鍵は「人材」

→ 人材開発のための様々な施策を実施

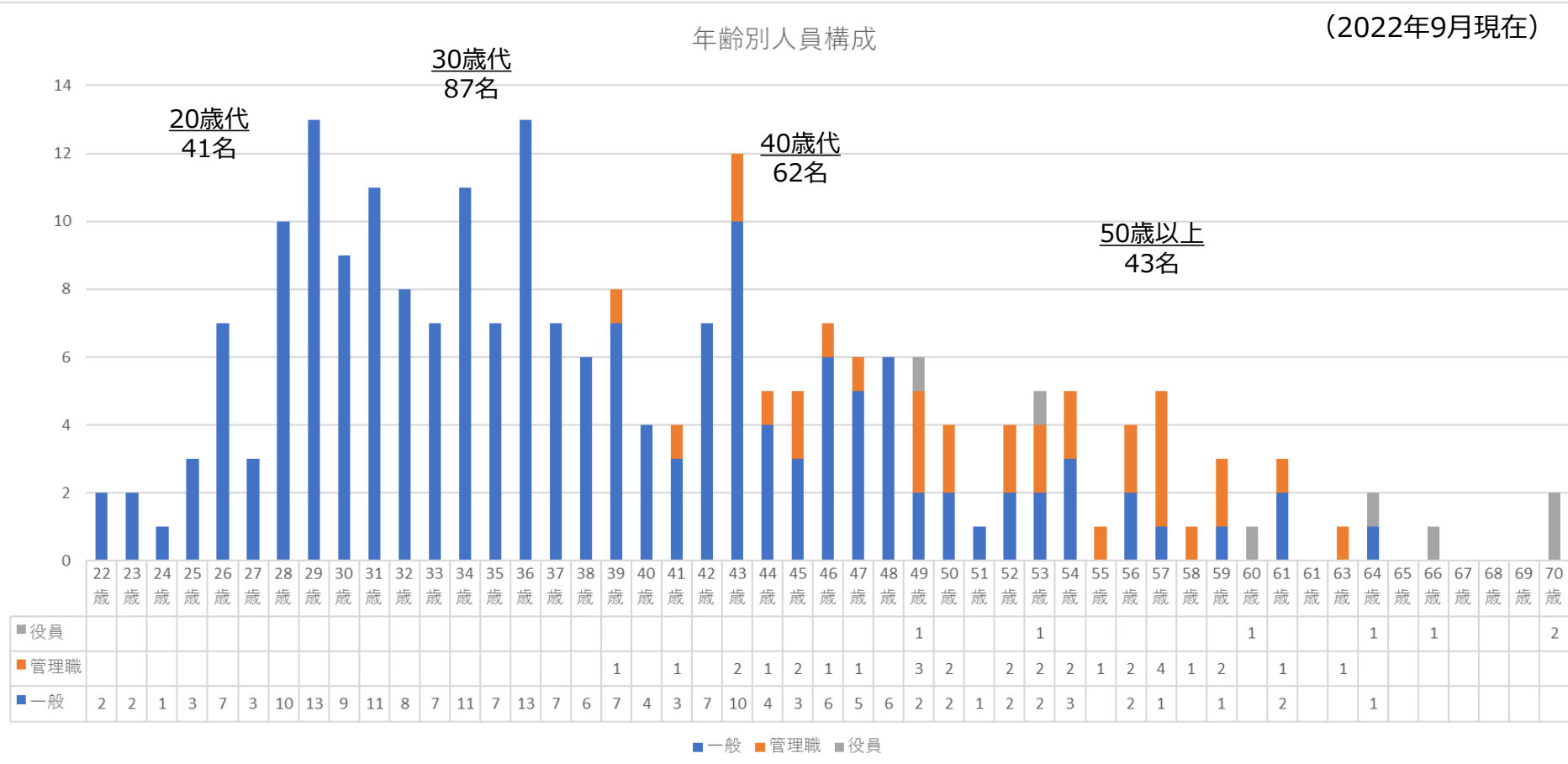
当社の人事制度の理念は、

- ① 能力開発
- ② 客観的な評価と公平な処遇
- ③ 働きがい、生きがいの創造

多様な人材の多様な働き方を支援するため、社員一人一人が能力を発揮できる制度・環境を整備し「従業員の幸福と自己実現」の両方を実現することを目指しています。

## 3. 内外環境分析から求められる課題

(1) 人員構成：20歳～30歳の若手社員が充実



## 3. 内外環境分析から求められる課題

### (2) 当社の組織文化：社員の状況

#### <強み>

- ・20～30歳台の若手社員が多い
- ・業務に真面目で地道に取り組む組織風土
- ・基本方針を全社に浸透させ易い環境

#### <弱み>

- ・大人しく消極的な取り組み姿勢
- ・部門内の人材育成意識が低い
- ・組織内のリーダーシップの不足
- ・品質問題に対する意識が低い

#### <機会>

- ・若手・中堅社員の採用
- ・顧客からの新製品・品質要求の高まり

#### <脅威>

- ・若手の退職者が発生している
- ・自発的な能力開発の意識が低い

#### <まとめ>

##### ①行動能力：チャレンジ意識が低い

- ⇒目標チャレンジシートに基づく自発的な能力発揮  
(本部長・管理職が鍛える環境)
- ・賃金体系見直し：頑張った者が報われる体系

##### ②組織風土面：「真面目・地道」の文化

- ⇒個人の潜在能力をもっと引き出し、組織全体  
(現場力)のベースを上げる
- ・職能資格制度に基づく人材育成体系整備
  - ・キャリア育成の仕組み導入
  - ・各分野のスペシャリスト育成

## 3. 内外環境分析から求められる課題

(3) 「SWOT分析」  
によるまとめ

**強み (Strength)**

- ・20歳、30歳台の若手社員が多い
- ・業務に真面目かつ地道に取り組む

**弱み (Weakness)**

- ・組織内のリーダーシップの不足
- ・部門内での人材育成の意識が薄い

**機会 (Opportunity)**

- ・顧客からの新製品・品質要求
- ・多様な人材の活躍が必要  
(高齢者、女性、外国人等)

**強みを活かす/積極攻勢**

- ◇各分野のスペシャリスト育成  
(生産・販売・研究・管理)

**弱み克服**

- ◇人材育成意識の醸成
- ◇幹部層の計画的育成

**脅威 (Threat)**

- ・若手の退職者が発生
- ・自発的能力開発意識が低い
- ・責任感が希薄

**差別化**

- ◇人材確保
- ◇働き方改革の推進

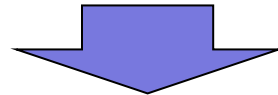
**最悪状況回避・撤退**

- ◇新卒・中途の採用継続
- ◇コンプライアンスの徹底

## 3. 内外環境分析から求められる課題

### (4) まとめ

- ◇人材確保：年齢構成の歪み（20～30歳台は多いが、中堅以上は少ない）
- ◇人材育成：将来の幹部候補者の育成不足／各部門のスペシャリスト不足
- ◇組織文化：真面目かつ地道な取組み姿勢／積極的なチャレンジが少ない



### <内外環境から求められる課題>

- ◇人材確保：社員・パート社員の採用継続
- ◇人材育成：幹部層の計画的育成／スペシャリスト育成
- ◇組織文化の改革：人材育成体系整備・実行の継続
- ◇働き方改革の推進：魅力的な職場づくりの継続



 4. 2023中計人材戦略重点課題

重点課題	達成目標
1. グローバルな事業拡大及び新規事業育成 加速のための人材の確保・配置	[質] 戦略遂行に必要な人材が 確保・配置されている [量] 2025年度末に必要な人員が 充足されている
2. 経営理念及び2023中計実現に向け 「成長と自立」を目指す「能動的人材」の育成	社員が主体的かつ挑戦的に課題・目標を 設定し、達成に向け真摯に取り組んでいる
3. コンプライアンス（法令遵守）の徹底	全社員が会社の成長発展を目指して 法令を遵守し、役割を果たしている

## 4. 2023中計人材戦略重点課題

### ＜戦略課題 1＞

グローバルな事業拡大及び新規事業育成加速のための人材の確保・配置

方 策	目 標 値
①事業拡大に対応した 「必要・在籍人員計画」の立案・実施	2026年末社員 <u>（検討中）</u> 名 台湾支店15名 パート社員70名～
②社員・パート従業員の採用継続 ・全国採用・中途採用の強化 ・多様な人材の確保・登用	・定期採用5名以上/年（女性比率40%） ・女性の責任者数：1名以上/年 ・外国籍の社員数：1名以上/年

## 4. 2023中計人材戦略重点課題

### <戦略課題 2>

経営理念及び23中計実現に向け「成長と自立」を目指す「能動的人材」の育成

方 策	目 標 値
①経営幹部層等 リーダー職の計画的育成	①取締役会での討議継続
②現場力強化の人材育成 ・各職場でOJTの仕組み強化	②人材育成 ・本部長が研修プログラム作成 ・目標チャレンジシートの確実な展開 →評価へ直接結びつける（例：改善提案） ・各本部毎に社外研修を予算化して派遣 （年1回以上/1人を目標とする） 例）管理者研修、生産管理研修、技術者研修

## 4. 2023中計人材戦略重点課題

### <戦略課題 2>

経営理念及び23中計実現に向け「成長と自立」を目指す「能動的人材」の育成

方 策	目 標 値
③「人的資本」を重視する経営・方策	③各人の「スキルアップ」や 「自己の成長を意識させる」具体策の案画
④各部門のスペシャリスト育成 ・人材育成ローテーションの計画的実施 (各部門ニーズ把握、異動希望・面談、ローテ計画 の立案・実施)	④ローテーション実施 ・毎年4月実施（事前に本部長が案を作成する）
⑤能力開発目標の明確化 ⇒ジョブ型雇用制度の検討	⑤各人の目標チャレンジシートへの明確化 ・社員が納得できるキャリア開発機会の提供 ・ジョブ型雇用への転換検討

## 4. 2023中計人材戦略重点課題

＜戦略課題3＞ コンプライアンス（法令遵守）の徹底

方 策	目 標 値
法令及び社会的規範の遵守 ・内部統制体制の強化 （法改正への迅速な対応等）	・社内規程の見直し⇒1回/年
・法令遵守教育の強化 （eラーニング、研修の内容充実）	・eラーニング⇒4回/年
・罰則の厳格運用 （重大過失・トラブルへの処分対応）	・都度審査（経営管理本部）
・サイバー攻撃への対応策	・情報管理室で検討 ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の検討 ・IT教育の充実

## <注意事項>

当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的に判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。投資に際しての最終的なご判断は、ご自身がなされるよう、お願い致します。